

環境配慮についての目標及び実施計画

2007年度環境目標及び実施計画

実施内容の難易度 : A すぐできる B やや難 C 難

環境側面	項目	環境配慮についての目標	2007年度環境目標	実施計画	難易度
環境配慮への取組体制等	環境管理システムの確立	環境管理システム体制の確立を図る。	<p>ユニットの体制強化及びユニット構成員への周知を徹底する。</p> <p>環境管理システムの普及を推進する。</p> <p>環境マネジメント規格（ISO14001）の認証取得を目指して、先進事例を参考に検討を進める。</p>	<p>環境方針の周知を行う。</p> <p>環境管理システム機能の充実について検討をする。</p> <p>ユニット毎の取組を強化する。</p> <p>環境管理システムを普及するため職員研修を実施する。</p> <p>ISO14001を認証取得している先進大学の事例等の収集と検討を行う。</p>	A B B A A
環境負荷低減に関する取り組み	総エネルギー投入量及び削減	電気・重油・都市ガスなどエネルギーの使用量を中期計画において、平成15年度比6%削減を目標とする。	<p>エネルギーの使用量を対前年度比1%削減を目標とする。</p> <p>機器等の省エネルギー化及び省エネルギー活動の普及を推進する。</p>	<p>【共通事項】</p> <p>ポスタ - 及びシ - ルによる節電・節水の呼びかけを行う。</p> <p>階段利用の促進を行い、エレベ - タの適正使用を図る。</p> <p>光熱量等の調査報告を定期的に行い省エネルギー - 活動を呼び掛ける。</p> <p>定時退庁の普及及び昼休み消灯を実施する。(窓口業務を除く)</p> <p>空調機の運転時間及び室温設定の最適化を図る。(原則時間外の運転禁止)</p> <p>空調機のフィルタ - 等の定期的な清掃を行う。</p> <p>ウォ - ムビズ・ク - ルビズを推奨する。</p> <p>【電気】</p> <p>OA機器の効率的な運用を図る。</p> <p>省電力装置及びデマンド制御装置の導入を推進する。</p> <p>自動消灯装置の導入を推進する。</p> <p>高効率型照明器具への更新を推進する。(インバ - タ形安定器使用)</p> <p>低負荷トランスの休止及び超高効率型トランスへの移行を促進する。</p> <p>電気(電動)ポットから保温ポットへの切り替えを図る。</p> <p>設備改修を行う箇所においては、分灯化を推進する。</p> <p>【重油】</p> <p>暖房運転期間及び運転時間の最適化を図る。</p> <p>蒸気バルブ及び露出蒸気管等の断熱被覆化を推進する。</p> <p>【都市ガス】</p> <p>湯沸器及びガスト - プの適正使用を行う。</p> <p>GHP空調機の点検調整を行う。</p> <p>補助暖房器具の使用状況把握を行う。</p>	A A A B B C A A B B B A A B A A B A A B A A

環境側面	項目	環境配慮についての目標	2007年度環境目標	実施計画	難易度
環境負荷低減に関する取り組み	水資源投入量及び削減	水道の使用量を中期計画において、平成15年度比6%削減を目標とする。	水道の使用量を対前年度比1%削減を目標とする。	実験機器等の冷却水・洗浄水の使用実態把握及びこれに基づいた改善を図る。 水道水等の流量調整を行う。 漏水調査を行い早期発見と早期修繕に努める。 トイレに擬音装置及び節水コマの設置を推進する。 実験機器等の冷却水垂れ流し防止の呼びかけを行う。	B B C B A
	総物質投入量及び削減	用紙類の有効活用を図る。	用紙の両面使用を推進する。 再生紙の使用を推進する。	リサイクルボックスの設置普及を推進する。 封筒の再利用を促進する。 用紙の裏面活用の徹底を図る。 両面プリンタの導入を促進する。	A A B C
	温室効果ガス等の大気への排出量及び削減	CO ₂ 排出量を中期計画において、平成15年度比6%削減を目標とする。	CO ₂ 排出量を対前年度比1%削減を目標とする。	空調機の運転時間及び室温設定の最適化を図る。(原則時間外の運転禁止) 暖房運転期間及び運転時間の最適化を図る。 通勤時自動車のアイドリング抑制を呼びかける。 代替エネルギーの導入を検討する。	B C B A
	化学物質排出量及び管理状況	化学物質の適正な管理を行う。	化学薬品について全学一元化的な管理を行う。	全学的な化学薬品管理システムを導入し、化学物質の発注から廃棄まで適正な管理を行う。 化学薬品の使用済み廃瓶・廃容器の定期的回収及び管理の徹底を図る。 廃液回収を月1回程度行い、各実験室の廃液貯蔵量の削減を図る。	A A B
	廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及び削減	廃棄物の発生抑制、リユース・リサイクルを促進する。	廃棄物の分別を徹底し、廃棄物の資源化を図る。 リデュース・リユース・リサイクルの促進を図る。 環境汚染の更なる防止策に努める。	分別回収ボックスを増設する。 プリンタ・用トナ・カ・トリッジの回収を行い再利用を図る。 不用什器類の情報提供を行い再利用を促進する。 不用図書を焼却処分せず、必要とされる小中学校の図書館等に譲渡する。 蛍光灯・ボタン電池等の分別回収を徹底する。 建設廃材の適正処分を遵守する。	A B A B A A
	総排水量及び削減	排水の適正な管理を促進する。	排水の管理を徹底する。	食堂排水のグリストラップ清掃を強化する。 排水の管理体制を周知する。	B A
	グリーン購入の状況及び推進	環境配慮型製品を優先的に購入する。	岩手大学グリーン調達方針に基づく調達を行う。 文房具の共有利用を図り、一具一品運動を推進する。	電子掲示版を利用して、岩手大学における「環境物品等の調達の推進を図るための方針」を職員に周知徹底する。 エコマ・ク・グリーンマ・ク商品を優先的に購入する。 備品や文房具の共有化を図る。	A B A
	環境負荷削減と経済効果	省エネルギーの推進を積極的に図る。	省エネ設備の導入を図りエネルギー削減に努める。	省エネルギー設備の導入促進による電気使用量の削減に努める。 トッランナ方式による電気機器の更新を図り、節電節約を行う。 ゴミの分別化処理の促進による経費の削減を図る。	C C C

環境側面	項目	環境配慮についての目標	2007年度環境目標	実施計画	難易度
環境に関する負荷の低減	緑豊かなキャンパスづくり	学内環境整備の促進を図る。	環境整備を全学的に実施する。	年間計画を定め、清掃、除草等の環境整備を実施する。	A
	環境教育	大学・大学院における環境教育・学習を推進する。 附属中学校、小学校、幼稚園、特別支援学校と連携した環境プログラムを定着させる。	環境教育・学習の推進を図る。 「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」を大学教育に織り込む。 附属小学校では、「総合的な学習の時間」等を活用し、自然観察や地球温暖化の学習など環境について学ぶ場を創る。 環境への配慮と地域との連携強化を図る。 附属中学校では、環境を守りはぐくむ心と感受性を育て、環境美化活動、エネルギーの節約等に配慮した生活・行動を実践できるよう指導する。 附属特別支援学校では作業学習を通して環境教育に取り組む場を創る。 附属幼稚園では植物栽培等を通して環境についての関心を持たせる活動を行う。	環境に関する図書の充実を図る。 教養教育と専門教育をESDで融合するとともに複合的な人間の諸課題に対応した人材養成のため、全学的副専攻制度を推進する。 附属小学校では、総合的な学習として4年生の「守ろう私たちの盛岡」を今年も実施する。また、中津川での調査を発展させ6年生の「とことん研究 - 卒業研究」でグローバルな視点から環境等の学習に取り組む。 地域の子供会に新聞や段ボール箱等を提供する。 附属中学校では、環境への配慮と地域との連携を強化するため、古新聞やダンボールを集積し、地域の子供会の資源回収に協力する。また、生徒会の委員会活動として、全校に節水、節電を呼びかけ、環境への意識を高める活動に取り組む。 附属特別支援学校では、給食の廃油と残飯を利用した石けんの製作、腐葉土作り、牛乳パックからの手漉き和紙作り、廃材利用の鉢カバ - 作りの作業学習を通して環境教育に取り組む。 園庭の自然環境を生かし、身近な昆虫や植物に親しませ、飼育や栽培等を通して、命の大切さを学ぶとともに、生き物が生活しやすい環境について関心をもたせる。	B B A A A A
環境関連の教育・研究に関する取り組み	学生等の環境への取り組み	学生による自主的な環境活動の促進を図る。	キャンパスクリーンサポーター制度の推進を図る。 学生の自主的活動支援事業等を支援する。	キャンパスクリーンサポーターを中心として学生がゴミ拾い、落ち葉拾い等の清掃活動を推進する。 レッツビギンプロジェクトとして、地元農家や自治体と連携し、ため池・土水路・小区画水田保全等の自然環境保全活動を推進する。 レッツビギンプロジェクトとして、子供向けのエネルギー・環境に関する教材を開発し、理科教室等を開催して子供達の環境への関心を高める活動を推進する。	A B B
	環境に関する研究の取り組み	大学における環境関係の研究を充実する。	環境関係の研究に関する情報の提供	環境研究の実績把握と当該研究実績の紹介 北上川流域水環境保全に向けた地域共同管理システムの社会学的研究	A A
環境コミュニケーション	地域における環境関連の事業等への積極的な参加を行う。		地域における環境コミュニケーションを図る。	環境等に関する外部委員会等への積極的な参加・協力をを行う。	A
				環境等に関する公開講座、講演等の実施及び自治体等への協力をを行う。	A
				附属小学校において地域の掲示板に児童の作品を掲示するなど地域の環境への取り組みに協力する。	B

環境側面	項目	環境配慮についての目標	2007年度環境目標	実施計画	難易度
学内及び地域社会に対する取り組み	構内事業者の取り組み	<p>大学生協としての環境管理システムを構築する。</p> <p>構内事業者参画による環境管理システムの構築を目指す。</p>	<p>環境に配慮した取り組み活動を実施する。</p> <p>「IES いわて環境マネジメントシステム」の認証取得に向けた取り組みを検討する。</p> <p>構内事業者参画による環境配慮への取り組みを推進する。</p>	<p>ゴミの分別回収を継続実施する。</p> <p>弁当容器としてリサイクル容器を使用し、回収を行う。</p> <p>グリーン購入法適合商品の積極的購入を行う。</p> <p>食器洗浄剤は環境に配慮し「苛性分・リン分」を含まない洗剤に限定して使用する。</p> <p>割り箸の100%回収とファイバー箸の活用を行う。</p> <p>排水等の環境に配慮し、無洗米を使用する。</p> <p>ゴミの減量化のため、カット野菜を活用する。</p> <p>岩手版ISO14001である「IES いわて環境マネジメントシステム(ステップ2)」の認証取得に向けた取り組みを検討する。</p> <p>構内事業者の廃棄物排出状況及び処分状況を把握する。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>C</p> <p>A</p>
	放置自転車の処分と有効活用	<p>放置自転車を削減し、効率的な管理体制を構築する。</p>	<p>全学での放置自転車の実態調査と処分等について検討する。</p>	<p>放置自転車削減への呼びかけを行う。</p> <p>放置自転車の実態調査を行うとともに、リサイクル及び廃棄処分についてのル-ル、システム等について検討する。</p>	<p>A</p> <p>B</p>
	禁煙対策	<p>分煙環境の整備と施設利用者への周知徹底により受動喫煙を防止する。</p> <p>2008年4月より構内全面禁煙とする。</p>	<p>学内全面禁煙に向けて学生・職員の禁煙指導を行う。(保健管理センターで禁煙支援活動を行う。)</p>	<p>禁煙ポスター等により職員・学生に受動喫煙の害等への理解・関心を高める。</p> <p>受動喫煙の害についての教育を行う。</p> <p>定期巡視を行い、粉じん濃度等に問題のある喫煙所は廃止を含めて検討する。</p> <p>歩行喫煙調査を行う。</p> <p>構内の敷地内全面禁煙までのカウントダウン掲示板の設置及び表示の更新を行う。</p>	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>
	地域社会との関わり	<p>地域社会の取組みに積極的に協力する。</p> <p>地域社会への情報公開を推進する。</p>	<p>地域社会の意見を反映させるための仕組みを検討する。</p> <p>岩手大学の環境への取組みについて地域社会に発信する。</p>	<p>ホームページで岩手大学の環境に関する取り組みや現状等をわかりやすく紹介する。</p>	<p>A</p>